

## 1－令和元年度 事業報告

理事長 岩崎正日登

社会福祉法人としての使命は「社会、地域における福祉の発展・充実」にあり、社会福祉事業の安定的・継続的経営に努めることが本道である。さらには、多様な福祉課題に柔軟にかつ主体的に取り組むことを旨とし、公益性・公共性の高い法人である。平成29年度は、この主旨をより具体的に実現するために社会福祉法改正がされ施行された。

当法人は既に、2007年より宇都宮市スポーツ広場整備事業の助成を地元自治会と共に受け、住民の健康と体力の向上を図ることを目的とした、無料低額な貸グランド事業を行っている。さらに、栃木県社会福祉法人による「地域における公益的な取組」推進協議会の実施する「いちごハートねっと事業」に加盟して「おこまり福祉相談窓口」を開設し、三拠点に窓口を設けている。その他、サービス向上・地域事業委員会を中心として、ホームタウン宝木において子ども塾・わいわい食堂を地域の二つの医療法人と共に開設し、子どもと家族をささえる居場所をつくり、運営するに至った。

また、栃木県と社会福祉法人経営者協議会が協定を結んで結成された、大規模災害時に高齢者や障害者などを支援する「災害福祉支援チーム（DWAT）」の設置に関して、法人として協定を結び職員を派遣することとした。

宇都宮市の実施する総合事業を念頭にした通所介護であるグッドエイジクラブ宇都宮については、近隣の5市からの受け入れを行い、広域的なリハビリデイサービスとして浸透を図り、概ね順調に利用者の増加が続いている状況である。また、職員の福利厚生施設としての役割をもっており、休日の日曜日に開館している。さらには、厚生労働省の推進する企業主導型保育事業であるグッドチャイルド保育園を開設して、子どもを育てる職場環境を整えた。

宝寿苑拠点については、昨年度ショートステイからの転換により60床とし、特養としての入所ニーズに応えた。しかしながら、一方で職員の人材確保については一段と厳しい状況にあるので、ベトナムから5人の技能実習生受け入れた。また、ヘルパー派遣や訪問看護についてはニーズが高く派遣が多くなったが、デイサービスについては利用者ニーズをとらえられず収入減となった。

ほそや拠点については、地域の高齢者増を要因として包括センターの委託業務が増加した。また、グループホームについては、子ども食堂を開設したが運営は順調であった。

上河内拠点については、上デイで概ね順調に利用者増加が続いたが年度末に減少に転じた。羽黒レクリエーションセンターについては、計画通りの運営には至らず、配置転換を行いその対策とした。ヘルパーステーションについては、地域ニーズを的確にとらえ体制を整えて運営した結果、大きく収入の増加に貢献した。グループホームは人材難もありやや厳しい運営となったが、小規模多機能施設は地域包括支援センターや居宅、地域との連携により、安定した運営を継続している。